



録画配信

人口減少

都市が成熟し続けるために適切な政策選択を

政策 TODA
えん どう ひで き
遠藤 英樹 議員

Q 人口減少期に入り、政策の見直しは

A 前期計画の推計を見直し、適切に対応

議員 本市は人口増加の自治体として認知されてきたが、その伸びは近年鈍化しており、令和5年には初めて自然増減が62人の減少に転じ、社会増減も338人の増加に留まっている。戸田市人口ビジョンの将来展望では2050年に15万人程度になると予測しているが、あと数年で人口が減少した理由の認識②人口が推計と異なっていくことの市政への影響③今後の施策について伺う。

企画財政部長 自然減少については本市に限ったことではないが、社会増加の鈍化については開発が落ち着いていることと住宅価格の高騰が要因と認識している。人口推計の結果を全庁的に共有し、適切に今後の取り組みを検討していく。

市長 税収減少や高齢化率の上昇など、多くの自治体が抱えている問題に本市は想定より早く直面することになるが、市民が安心して暮らしていけるための施策を行うことで、結果として人口の維持・増加につながると考える。

議員 本市は成長期から成熟期へと移行している。高度地区の規制や学校のためにマンション開発を抑制する要綱を廃止するなど、積極的かつ適切な政策転換を求める。議会も共に考えていきたい。

直近1年間の人口の動き(全体・日本人・外国人)									
									令和7年6月1日 現在
全人口			日本人			外国人			
男	女	計	男	女	計	男	女	計	
72,351	70,110	142,461	67,708	65,620	133,328	4,643	4,490	9,133	
									令和6年6月1日 現在
全人口			日本人			外国人			
男	女	計	男	女	計	男	女	計	
72,123	69,918	142,041	67,910	65,680	133,590	4,213	4,238	8,451	

日本人の人口は既に減っている



録画配信

樹木と桜の管理

市全体の樹木数を把握すべきではないか

政策 TODA
たく や
そごう 拓也 議員

Q 老齢化した樹木の更新計画は

A 更新計画策定の予定はない

議員 本市は、樹木全体の統一的な管理体制や計画が存在せず、各管理者による管理となる。市全体で、何本あり、いつ植え、いつ伐採したか、把握できていない。樹木が一斉に老朽化・寿命を迎えるに当たり、以下を問う。①所管ごとの管理は、情報、ノウハウの共有もできない。一元管理が必要ではないか②市全体の計画が必要ではないか。

環境経済部長 ①各管理者が、適切に管理している ②画一的な樹木の更新計画の策定予定はない。

市長 今回調査したデータは、樹木の総量や支出の経年変化など、効果的な管理のため統計的な分析に役立てるよう活用していく。

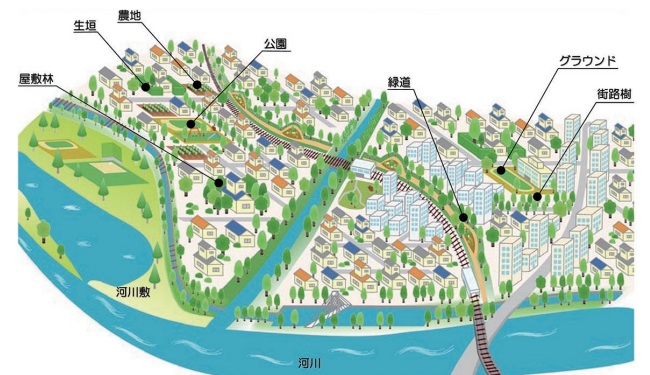
Q 老齢化した桜の更新計画は

A 桜に特化した更新計画の策定予定はない

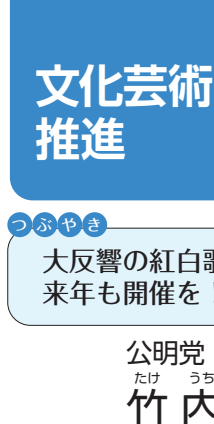
議員 寿命60年超とされる桜が一斉に老朽化・寿命を迎える。①現状の調査の予定は②将来を考えて計画すべきでは。

環境経済部長 ①樹木の状況に応じた管理により、適切な状態が維持できており、網羅的な調査の予定はない②桜の更新計画の策定予定はない。

市長 桜の樹勢などを適宜確認するとともに、部局間での適切な対応を図っていく。



市全体で何本あるかの把握・計画がない



録画配信

文化芸術活動推進

大反響の紅白歌合戦。来年も開催を！

公明党
たけ うち まさ あき
竹内 正明 議員

Q 戸田市紅白歌合戦、今後の開催は

A 指定管理者へ開催の検討を要望していく

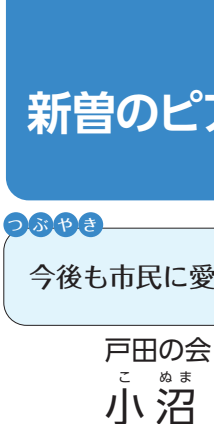
議員 令和6年6月議会で市民の裾野を広げる取り組みとして提案した「第1回戸田市紅白歌合戦」。チケットはすぐに完売と大反響を呼んだ。詳細は。

市民生活部長 本市で初めて市民が主体となつてつくり上げた紅白歌合戦。予選を勝ち抜いた小学生からシニアまで幅広い層が参加。計28組がプロのバンドの生演奏で歌や踊りを披露。予選会は141組。とても楽しみにしていたという声上がるなど好評だった。

議員 私にも感謝の声が届いている。文化会館の職員さん、商店会連合会の皆さん、プロデューサー、出演者、すべての関係者に感謝だ。今後の開催は。

市民生活部長 市民による文化芸術活動の推進に資するイベントだったと認識している。指定管理者へ今後の開催について検討するよう要望していく。

議員 90歳の女性で「お母さん」と呼ばれ親しまれている方が予選を勝ち抜いた。苦手な歌詞を覚えるためにラジカセで毎日曲を聴き、本番では歌も踊りも堂々と披露された。観客も出演者も感動で涙されていた。「来年はリベンジする」と決意しているお子さんもいる。条例制定の年にふさわしく、市民が主体となつてつくりあげ、ドラマいっぱいの「紅白歌合戦」。来年の開催を期待している。



録画配信

新曽のピアノ

今後も市民に愛されるホールへ

戸田の会
こ ぬ ま
小沼 さゆり 議員

Q 新曽福祉センターのホールについて

A 地域の声を反映し再整備に取り組む

議員 新曽福祉センターのホールは地域の文化福祉活動を支える舞台として長年親しまれてきた施設。再整備に向けた取り組みは。

健康福祉部長 新曽福祉センターのホールは多様な文化イベントに利用されており、利便性の高さが評価される一方で老朽化も指摘されている。

企画財政部長 再整備に向けた市民ワークショップでは多くの意見が寄せられている。今後、地域の方々の思いを大切に方針を検討していく。

議員 市民ワークショップで出たご意見は。

企画財政部長 新曽福祉センターのホールについては継続を望む声があり、東部・西部においても音楽室の設置を求める意見が寄せられている。3館共通の意見としては、新たに屋外広場などの居場所を求める声が見受けられた。

議員 再整備前にピアノを更新する考えは。

健康福祉部長 耐用年数を超えており、修繕にも限りがあるため、前向きに検討していく。

議員 今年度、文化芸術推進条例が制定され、市内各地で文化芸術活動の機運が高まっている。地域の音楽文化を支えるピアノの早期更新を要望する。



新曽福祉センター